「死なないで　生きて　－虐げられた魂の詩－」

先日ＮＨＫの朝のﾆｭｰｽで取り上げていた「死なないで　生きて　－虐げられた魂の詩－」を、僕にしては珍しく一夜で読み終えました。ｲﾝﾀｰﾈｯﾄに寄せられた、親子間、夫婦間、学校、職場等での多くの被虐待経験者の多くの詩を収録し、数人のﾎﾞﾗﾝﾃｲｱｸﾞﾙｰﾌﾟが出版した本である。単に身体的、また、ことばの暴力だけでなく、いじめ、ﾈｸﾞﾚｸﾄ等からの体験の詩である。その数編の一部フレーズを紹介する。

「……。あなたは私の母でした。だからこそ、私はこう思うのです。虚脱するような深い安堵に包まれてつぶやくのです。一筋の涙とともに。死んでくれてありがとう……と。……。あなたが天に昇る一条の煙を仰ぎながら　私はやっと、あなたにこう呼びかけることができるのです。お母さん、……と。」

「家の近くにトンネルがあってね。通過した後、ライトを消し忘れることがあるの。そうすると、対向車がパッシングをして教えてくれるわけ。愛に飢えた私はそれだけでジーンとなっちゃうの。人間っていいなって思う。不思議でしょう？そんなことで泣いたりできるなんて。」

正に、魂の叫びである。子どもや人と係わる職業の方には、ぜひ読んで欲しい本である。いや、全ての人に読んでいただきたい本である。自分の言動が、いかに相手の心に、一生拭い去れることのできない傷をつけることがありえるかを理解しておくために……。そしてまた、ほんの些細な心配りの言動であっても、いかに人の心を癒すかを知るためにも……。

人と係わり合う折りに何が最も大切かを、考えさせられる本でもある。

（出版社：樹花舎　　編者：大島洋子　　定価：￥ 2,000 ＋税）

（2003 年 05 月 06 日 記）